

企業ニュース 東海カーボン

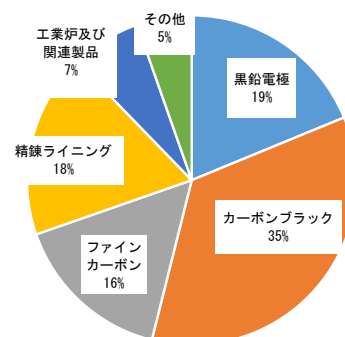
(東証1部：5301) <https://www.tokaicarbon.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

黒鉛電極メーカー

1918年、東海電極製造として設立。日本初の黒鉛電極の輸出を実現させた。1975年に現社名に変更した。電炉製鋼で用いられる黒鉛電極、タイヤの補強材料などに用いられるカーボンブラック、半導体・太陽電池の製造工程で用いられるさまざまな特殊黒鉛製品を製造するファインカーボン、アルミ精錬用のカソード（陰極）などの精錬ライニングの主要4事業の他、工業炉及び関連製品、ブレーキなどの摩擦材、リチウムイオン電池などの負極材などを手掛ける。主要4事業は近年、M&Aなどを活用し、拡大させてきた。特に黒鉛電極事業は、独SGL社の米国子会社を2017年に買収、昭和電工に次ぐ大手メーカーとなった。特に大口径の高品質品に強みを持つ。カーボンブラックは樹脂、インクの黒色顔料用途などに用いられている。

◇20.12期売上高構成比



(出所) 東海カーボン資料よりCAM作成

カーボンブラック、ファインカーボンの業績が回復

21.12期・第2四半期累計（1-6月）の連結業績は、売上高が1,174億円、前年同期比25%増、営業利益が109億円、同88%増。黒鉛電極の減収減益を、その他全てのセグメントでの増収増益で補い、期初計画を売上高で136億円、営業利益で63億円上回って着地した。黒鉛電極は世界的な粗鋼生産の回復に伴い販売数量は伸長したものの、売価下落の影響を受けた。足元の市況には反転の兆しがみられるが、1-6月の契約価格は依然旧値のものが中心となっていた。カーボンブラックはタイヤなどの需要回復、ファインカーボンでは半導体・太陽電池向けが堅調に推移、一般産業向けも回復基調となりともに伸長した。

21.12期決算連結業績の会社予想は、売上高が2,509億円、前期比24%増、営業利益が236億円、同3倍。期初予想からカーボンブラック、ファインカーボンなどのセグメント業績回復に伴い、売上高で230億円、営業利益で55億円上方修正した。上期は苦戦した黒鉛電極は、市況の反転で7-12月の契約価格上昇が見込め、業績に貢献しよう。

[株価動向・投資判断]

粗鋼生産の継続的成長に加え、環境意識の高まりで高炉から電炉へのシフトも見込め、当面黒鉛電極の需要拡大が期待できよう。市況反転に伴う販売価格上昇がカタリストとなろう。

<5301 東海カ 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.12	262,028 (▲13)	54,344 (▲26)	52,986 (▲27)	31,994 (▲56)	150.1	48.00
20.12	201,542 (▲23)	7,858 (▲86)	6,262 (▲88)	1,019 (▲97)	4.8	30.00
21.12 予	250,900 (▲24)	23,600 (▲200)	22,600 (▲261)	12,000 (—)	56.3	30.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価 (2021/8/13)	1,633 円
年初来高値 (高値日)	1,960 円 (21/5/10)
同 安値 (安値日)	1,236 円 (21/1/6)
予想 P E R (21.12 予)	29.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,028.8 円
P B R	1.59 倍
予想配当利回り	1.84 %
(1株当たり配当金年30.00円)	
R O E (20.12)	0.5 %
発行済み株式数	22,494 万株